熊本県の観光・レジャーに関するアンケート（2024年6月調査）

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート（2024年6月調査）」を実施した結果を公表いたします。（発送数：276、回収数：110、回収率：39.9%、回収期間：2024年6月17日～6月30日）本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1．熊本県観光DI　まとめ

	現状判断DI（4月～6月）	見通しDI（7月～9月）
合計(N=110)	**54.1**	**59.3**
行政・協会(N=37)	60.8	66.2
宿泊施設(N=25)	47.0	51.0
集客施設(N=14)	53.6	66.1
飲食・物販(N=7)	67.9	64.3
交通・代理店(N=21)	46.4	50.0
その他(N=6)	54.2	62.5

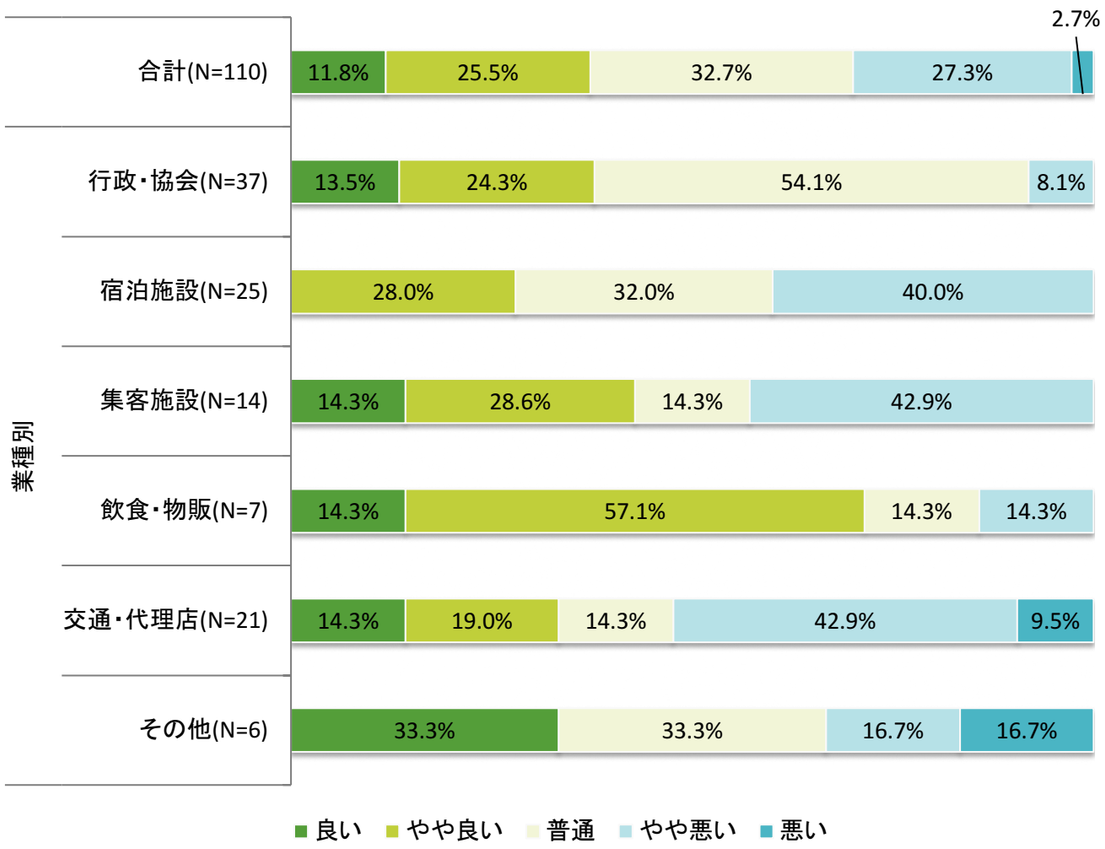
4～6月の熊本県の現状判断DIは54.1となり、前期（60.4）から6.3pt低下した。業種別にみると、行政・協会、集客施設、飲食・物販、その他の４業種で景況判断の節目である50を上回っていた。

引き続き、インバウンド需要の増加を中心にコロナ禍からの回復を挙げるコメントが多くみられる。一方、物価高騰などを背景にゴールデンウィーク以降の観光客の動きが想定を下回っているというコメントも散見されたため、前期から現状判断DIが低下する結果となった。

見通しDIは59.3となり、前回（64.2）から4.9pt低下した。すべての業種でDIは50以上であった。

見通しを判断する要因として、円安によるインバウンド需要増加の継続、あるいは物価高騰に伴う国内客の消費マインド低下など経済情勢に言及するコメントが多くみられた。

2．4～6月期の動向、景況感



4～6月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が37.3%、「悪い」と「やや悪い」の合計は30.0%となった。

業種別にみると、飲食・物販で「良い」と「やや良い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

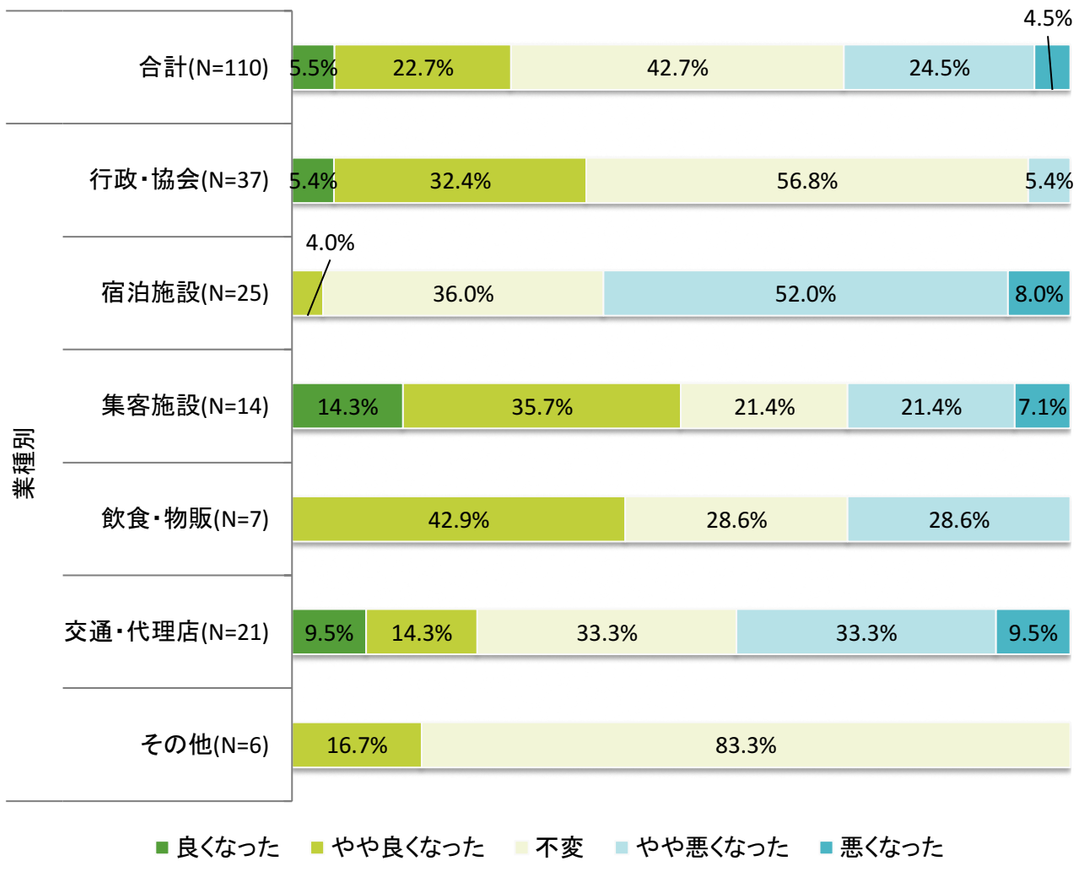
●良い
インバウンド需要の拡大（集客施設）

●やや良い
前年比で売上は増加しているが、原材料原価高騰、人件費高騰で収益としてはほぼ変わらない為（宿泊施設）
4～5月の売り上げはコロナ禍以前に比べても過去最高に近い売り上げになっている。またコロナからのお客様の戻りや、インバウンドの影響がある（飲食・物販）

●普通
新型コロナウイルス等の外的要因がなくなり、昨年度から観光客が戻ってきているように感じるため（行政・協会）
例年と大きな差異は無し（交通・代理店）

●やや悪い・悪い
4月はバンテリンゴルフ・プロ野球・東京ガールズコレクションなどのイベントの影響で動きが良かったが、とくにゴールデンウィーク後からの動きが鈍かった。（宿泊施設）
GWの曜日の並びが悪かったこともあるが、国内のお客様の動きが鈍い（物価高の影響）（集客施設）

3．1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感



1～3月期に比べた4～6月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が28.2%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で29.0%となり、後者の比率がやや高い結果となった。

業種別にみると、集客施設で「良くなった」と「やや良くなった」の合計が半数を占める。

【コメントの抜粋】

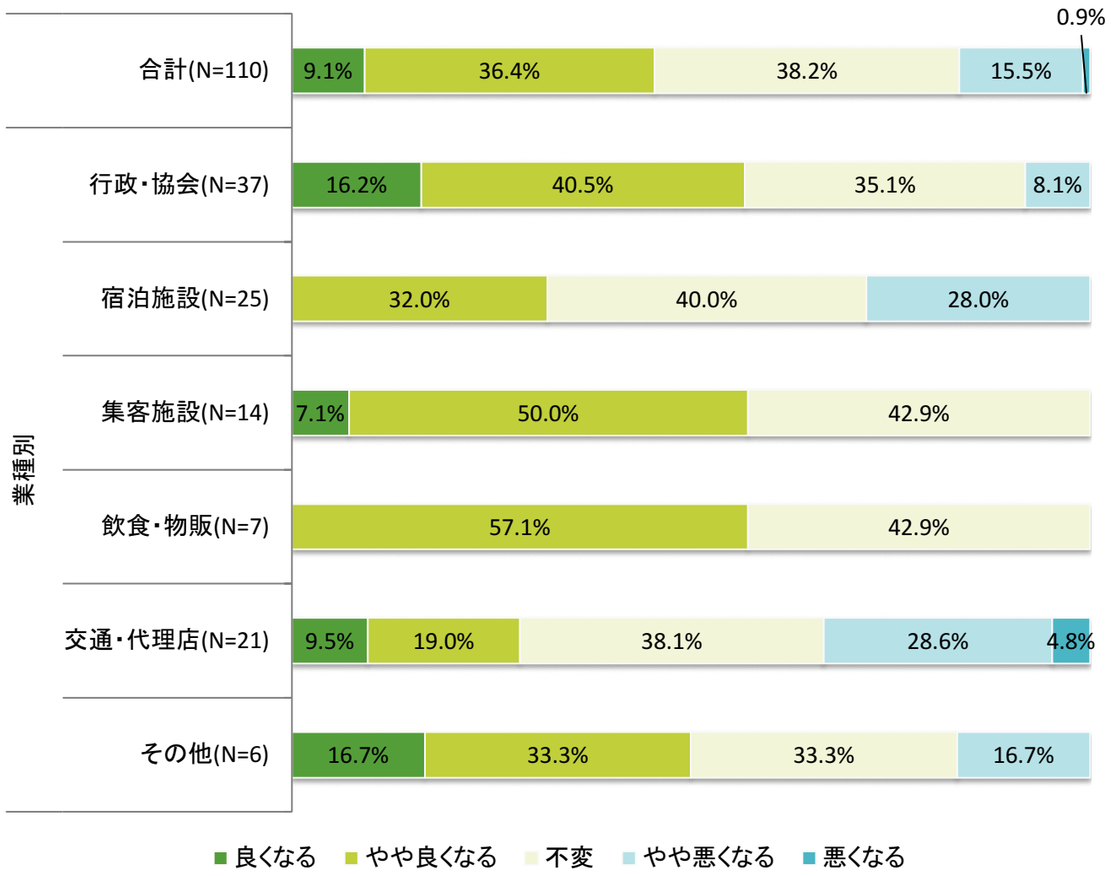
●良くなった
ご出張等での動きが活発になっています（交通・代理店）

●やや良くなった
市中では割と県外ナンバーの車、特にレンタカーを見かけるケースが増えた気がする（行政・協会）

●不変
国内客は落ち着きをみせてるがインバウンド客が台湾を中心に増加傾向にあるから（飲食・物販）
４月～６月は連休中天候に恵まれたが、特段、観光客が増加したような感覚はない（行政・協会）

●やや悪くなった・悪くなった
昨年のコロナの5類移行のタイミング、旅行割の有無が少なくとも影響している（集客施設）
宿泊は国内客の減少。宴会は増加傾向にある（宿泊施設）

4. 今後、9月までの業況の見通し



今後9月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は45.5%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は16.4%となった。

業種別にみると、行政・協会、集客施設、飲食・物販の3業種で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

●良くなる
大型のイベント等が復活してきている。また新たなイベントも発生してきている（交通・代理店）

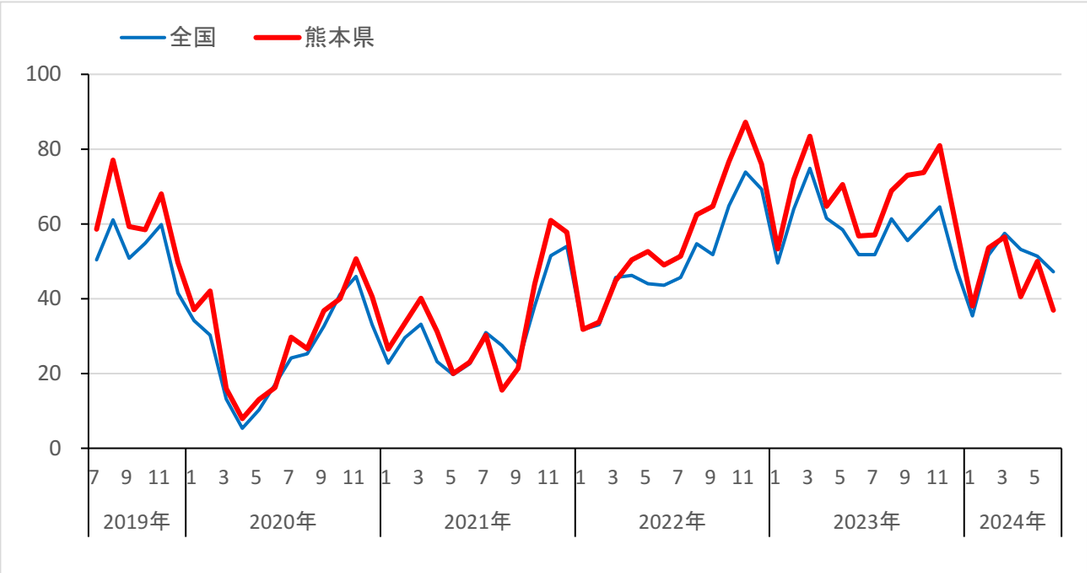
●やや良くなる
昨年から、観光地への人の動きが変わり、災害前の水準に戻っている。夏休みや今後台湾などからのインバウンドの効果は引き続き期待できる（集客施設）
現在の円安傾向がまだまだ続くと思われるので インバウンドの来客数の増加が見込まれるから（飲食・物販）

●不変
実質賃金の減少がプラスに転じれば消費マインド の好転も見込まれるが不透明な為（飲食・物販）
イベントを除くと前年より1割増し程度の推移をしていく見込み（行政・協会）

●やや悪くなる
物価高騰の見通しが不明（交通・代理店）
梅雨の具合と物価高による観光控えが予想される（宿泊施設）

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別（2019年7月～2024年6月）

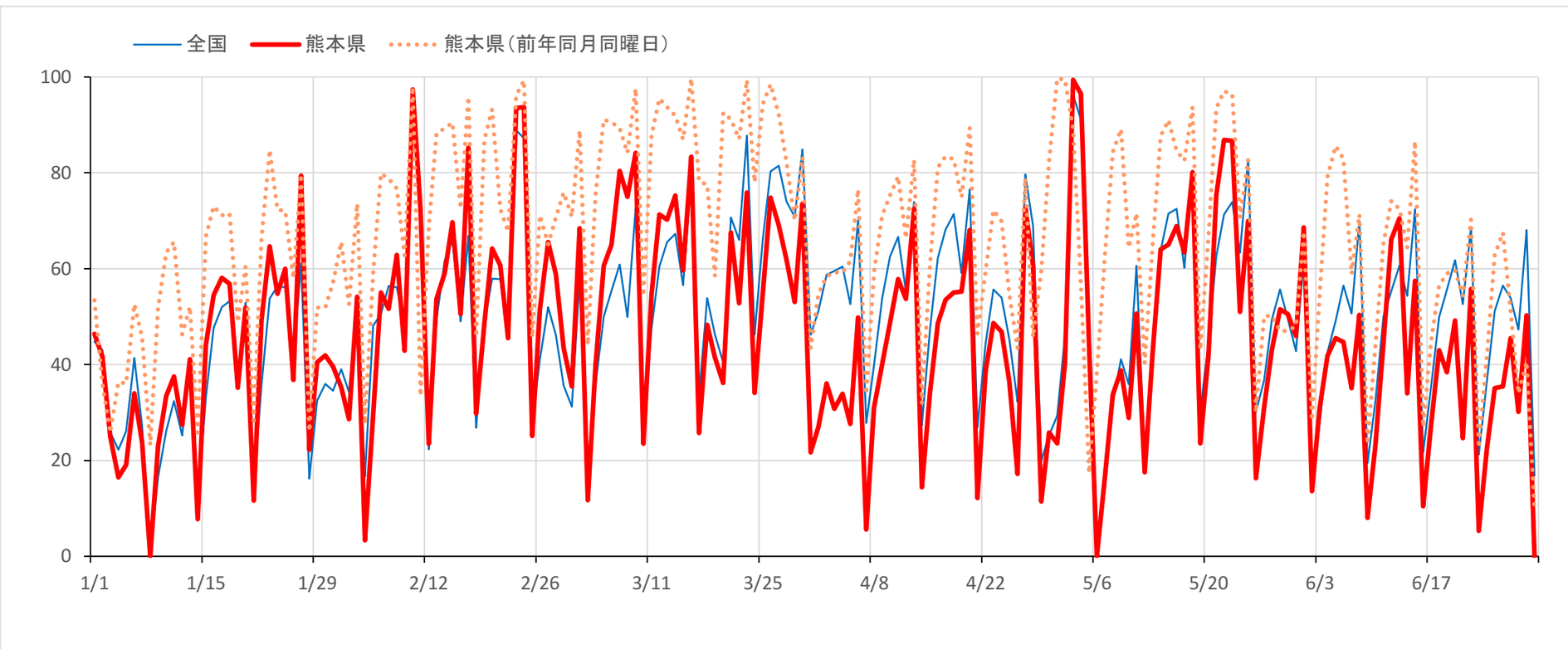


2024年4月における熊本県の宿泊稼働指数は40.5（前年同月差▲24.2pt）、5月は49.9（同▲20.6pt）、6月は36.9（同▲19.9pt）となった。

2023年10月から2024年6月にかけて9カ月連続で前年同月の指数を下回った。コロナ禍からの経済活動の正常化が進む中、旅行支援施策の縮小による観光宿泊需要が一巡し、指数は低下のトレンドが続いている。また、2024年3月から同年6月にかけて4カ月連続で全国における同期の指数を下回った。

地域別では、JASM第一工場が開所して以降、地域の建設需要が一服したことを受け、菊陽町、大津町など菊池地域で特に指数の低下がみられる。一方、荒尾市、玉名市で直近3カ月の宿泊稼働指数がいずれも60を上回るなど荒尾・玉名地域では指数が高位で推移していた。

②日次別(2024年1月1日～6月30日）



熊本県の宿泊稼働指数を日次別（原数値）でみると、2024年4月1日から同年6月30日の91日間のうち83日で宿泊稼働指数が前年同日差マイナスを記録しており、昨年と比較して低位で推移している。うち土休日は4月にかけ前年差のマイナスが大きかったが、それ以降はマイナス幅が縮小し、6/1、6/29にはプラスに転じるなど持ち直しがみられる。全国と比較すると、5月は全国との指数の差が小さく、熊本県が上回っている日も多かったが、4月、6月は全国を下回る水準で推移した。

ゴールデンウィークについて、5/3、5/4にそれぞれ99.4、96.5を記録するなど後半は高い値を示したが、前半（4/27～5/2）は平日を含んでいることもあり、前年差マイナスで推移した。地域別にゴールデンウィーク期間中の指数をみると、天草地域、阿蘇地域で高くなった。

用語解説

※DI（ディフィージョン・インデックス）
　同調査におけるDIは、現在の景況感（現状判断）、現在と比べた3ヶ月後の見通し（先行き判断）に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比（%）を乗じたものである。（良い…＋1、やや良い…＋0.75、変わらない…＋0.5、やや悪い…＋0.25、悪い…0）。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数
　宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、（公財）九州経済調査協会が推計・公表。原数値は 0 から 100 の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100 に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020 年 4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。
　具体的には、以下の式より算出している。

　100 －（（ 当日の空室数 － 当日を含む過去730日の最小空室数 ）/（ 当日を含む過去730日の最大空室数 － 当日を含む過去730日の最小空室数 ）＊ 100 ）

　本稿では、①月次別では、日次（原数値）データを7日間周期のデータとみなして要因分解し，曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。